

アラウンド GOGO 55



えんげの夢

池添 素

「一寸先は闇」とは政治の世界を指していますが、人生も「予測がつかない」「思い通りにならない」点では同じかも。「考えてもいなかったことが起こる」を地で行く、

激動の一年を過ごした私に新コーナー第1回目の白羽の矢がたちました。こんなときに夢を語るのも悪くないと思ひ引き受けた次第です。

2年半前に再婚、M氏から「今頃相手を替えるのもいいかも」と妙な祝福を戴きました。それから1年も経たない間に、パートナーは小脳梗塞で倒れ、5つの病院を渡り歩き、いまだに病院、仕事、運動のトライアングル生活が続

いています。落ち込む隙間を与えない配慮からか、たくさんのお仕事をいただき、障害者自立支援法とみなさまに心から感謝。

感謝はもっとたくさんあって、この世界に身を置いたからこそ味わえる体験だらけの一年でした。障害者手帳に障害基礎年金、制度利用ができたのは人によるネットワークのおかげ。

でも、時間がたつと「生きてるだけで丸儲け」という謙虚な気持ちから、思うように良くならない苛立ちなど、人間臭い気持ちもムクムクと現れてきます。そう簡単でない「障害受容」も、この世界に

身をおいてきたから味わえる体験です。

ところが、一筋縄ではないのが本題の「嚙下障害」。「ごっくん」ができる、その

ことがどれほど難儀なことか。私は障害を「本当は自分の力で解決したいけれど、自分の力だけでは解決できない問題」と定義してきました。しかし、「ヤルキ満々、しかしそれを解決する手立てがなく、問題が解決できない」のです。

「食」は胃からの栄養注入で解決できるのですが「喰う」にはならないのです。最悪の事態をいつも考えて1年1か月を過ごし、今もそれに変わりはありません。

夢をもたずに努力することに徹し、夢を見ることも避けられました。夢敗れる怖さからの逃避手段でもありました。しかし、夢を持たない努力が突ってか、夢が生まれる道が開け、夢を口で飲み込む日も近くなってきました。

夢は持つものではなく生まれてくるものですね。さて夢の味は。この続きを知りたい方は折にふれ夢の現状を報告しているインターネット「ひゅうまん京都」の「縦横無尽」にアクセスを。

(全障研副委員長・らく相談室)
*「アラウンド55(ゴーゴー)」は50代をむかえた会員による介護や健康、人生設計などをテーマにした800字のエッセイコーナーです。みなさんからの投稿を募集します。